

## 【環境・SDGs への意識実態調査】 SDGs の 17 の目標について、 「関心度」は高いが「貢献意欲」には戸惑いも。

＜花王 生活者研究センター調べ＞

2015年9月の国連サミットにおいて、加盟国全会一致で採択されたSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）。目標達成の2030年に向けて国の内外で国、企業、個人による取り組みが広がりつつありますが、日本ではSDGsという言葉の認知度は、まだ低いのが現状です。

花王株式会社「生活者研究センター」（※1）では、SDGsの17の目標を具体的に提示し、関心や貢献意欲などについて調査。その結果、首都圏在住の20～70代の既婚女性で、「関心がある」と答えた割合が50%を超えた目標は12、一方、「今後貢献したい」と答えた割合が50%を超えた目標はありませんでした。目標自体に関心はあっても、貢献となると戸惑いがあるようです。しかし、今の自分たちの暮らしからは少し遠いと思える目標でも、日常の何気ない体験や気づきから関心が芽生え、意識を変化させたり、自分にもできる行動に気づき始めている様子が見受けられたことから、まずは一人ひとりがSDGsに関心を持ち、考えることが大切と考えます。

### 【主な調査結果のポイント】

- SDGsの具体的目標について、関心は高いが貢献意欲には戸惑いも
- 日常の何気ない体験や気づきが、SDGsへの関心の芽生えに

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

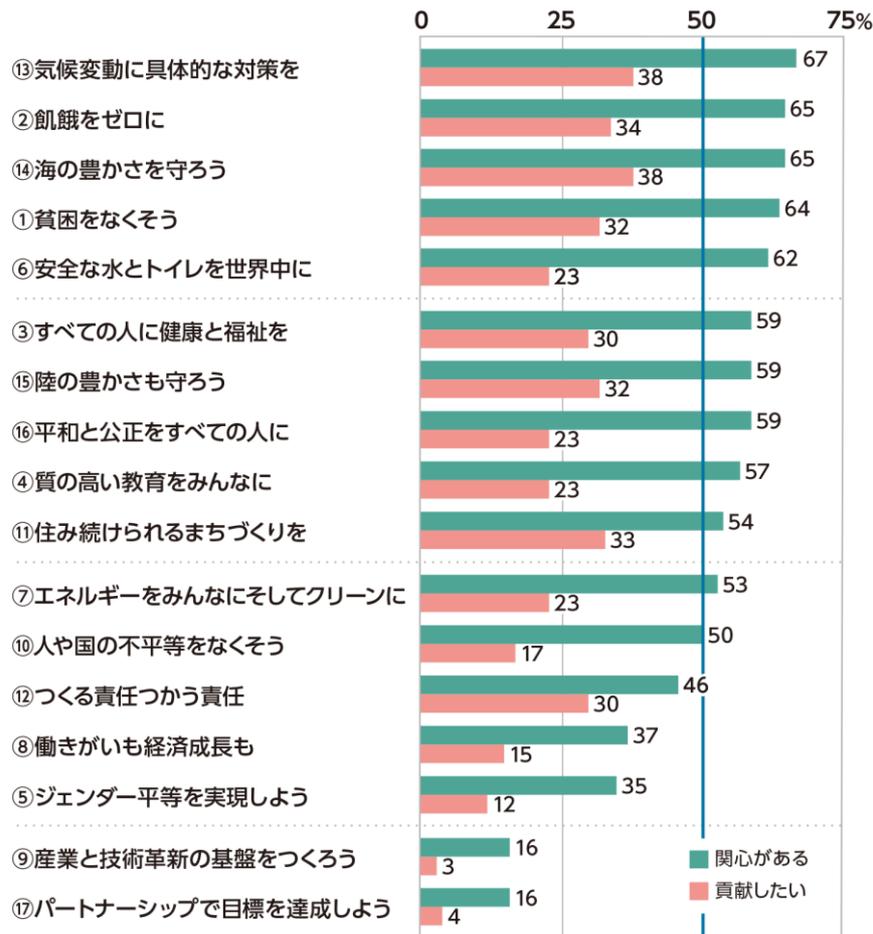
世界を変えるための17の目標



### ●SDGsの具体的目標について、関心は高いが貢献意欲には戸惑いも

調査によると、既婚女性に個別に17の目標を具体的に提示してみると、「関心がある」と答えた割合が50%を超えた目標は12あり、環境や人道的な目標への関心がなかでも高いことが分かりました。一方、「今後貢献したい」と答えた割合は、関心度に比べると低い傾向にあり、50%を超えた目標はありませんでした。目標自体に関心はあっても、「自分の負担になるような貢献は無理」、「何をすれば貢献できるかわからない」といった戸惑いの声が聞かれました。

#### ■SDGs(持続可能な開発目標)の各目標への関心と貢献意識



首都圏在住20～70代既婚女性 370人(複数回答) (2018年)  
 (花王 生活者研究センター調べ)

## ● 日常の何気ない体験や気づきから、SDGs への関心の芽生えに

貢献したいと思ったきっかけはさまざまですが、例えば、『⑬気候変動への具体的な対策を』については、「猛暑や異常気象による災害増加などへの危機感から関心が高まり、これまでも温暖化対策として取り組んでいた節電やごみの分別に、より積極的になった」という声が聞かれました。また、日本で暮らしていると意識しにくい目標でも、「勤め先の食品廃棄を見てあらためて考えた」、「知人が参加している活動に影響を受けた」など、日常の何気ない体験や気づきから関心が芽生え、「これから自分に何ができるか考えたい」と意識の変化へとつながったという声が聞かれました。まずは一人ひとりが SDGs に関心を持ち、考えることが大切と考えます。

 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	最近の異常気象には何か取り組まないと大変な事態になると実感。移動は出来るだけ公共機関や徒歩に。使い捨てをやめる、詰め替えてごみを減らすなど実施していきたい。(40代既婚女性)	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	子供の頃から教育を受けられれば、貧困や飢餓からも救われると思う。知人が子供食堂でボランティアをやっていると聞き、食材を提供したいと思った。(60代既婚女性)
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	コンビニのパートで毎日食品廃棄を見ると、家畜のエサに再利用もしているが、世界には困っている人が沢山いると思うと考える。(30代既婚女性)	 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	知人がLGBT啓発の活動に熱心に取り組んでいる。その影響もあり、私もイベントに参加したり、LGBTについて話し合ったりと、偏見をなくすようにしている。(40代既婚女性)
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	会社の支援活動で、トイレはアフリカの発展途上国では深刻な問題になっていると知った。社業を通じて、何か出来ることがあれば考えるようになった。(20代既婚女性)		

### 【調査概要】

「環境・SDGs についての意識実態調査」

◎ 2018 年 7～8 月／郵送調査／首都圏在住 20 代以上男女／684 人

◎ 2019 年 2～4 月／家庭訪問インタビュー／首都圏在住 30～60 代既婚女性／9 人

詳しい情報はこちら

▶ [くらしの研究「くらしの現場レポート」](#)

[www.kao.co.jp/life/life/report-53/](http://www.kao.co.jp/life/life/report-53/)

[www.kao.co.jp/content/dam/sites/kao/www-kao-co-jp/life/report/pdf/53.pdf](http://www.kao.co.jp/content/dam/sites/kao/www-kao-co-jp/life/report/pdf/53.pdf)

(2019 年 6 月掲載)

## ■ 慶応 SFC・加藤文俊先生インタビュー／日常とつながっている SDGs

持続可能な社会の実現のため未来に向けて取組むSDGs、「自分ごとでも他人ごとでもなく“自分たちごと”として考えよう」と語る慶應義塾大学の加藤文俊先生へのインタビュー記事も紹介しています。私たち一人ひとりがSDGs実現のためにできること、貢献のためのアクションを継続しやすくする、そのカギとは？

▶ 暮らしの研究「達人コラム」

[www.kao.co.jp/life/life/column-52/](http://www.kao.co.jp/life/life/column-52/)



※1 花王株式会社「生活者研究センター」 [www.kao.co.jp/life/about/](http://www.kao.co.jp/life/about/)

「生活者研究センター」では、花王グループの使命である「よきモノづくりを通じて人々の豊かな生活文化へ貢献すること」の実現をめざし、生活者一人ひとりの暮らしを見つめた生活者研究をおこなっています。生活現場での観察と対話を重ねながら、行動に表れない本音、説明できないこだわりなど、行動の裏にひそむ「おもい」まで読み解いて、課題を発掘し、商品やコミュニケーション開発に活かすとともに、生活者研究のウェブサイト、花王「暮らしの研究」から、広く社会に発信しています。

花王「暮らしの研究」 [www.kao.co.jp/life/](http://www.kao.co.jp/life/)